

■誌上発表3

1 研究主題 色について話し合おう

2 提案者 江東区立深川第四中学校 教諭 坂東 由香里

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

新学習指導要領の美術科の改訂の一つに「鑑賞領域の改善」があげられる。中でも自分なりの意見や価値を作りだしていく学習を取り入れることを重視している。作品などに対する思いや考えを説明し合う学習を取り入れ、説明し批評しあうことで、コミュニケーション能力を高めていくことが求められている。1学年時にはさまざまな領域や教材への導入、取り組みを含めて多くのアプローチの方法が考えられる。今回は色の名前に着目し、色名の背景にある文化的なものにも目を向けさせ、色に対する関心を高めることをねらいとする。

4 学習の目標

- (1) 多くの色についての意見交換をしながら、色についての関心を高める。
- (2) 色に対するイメージをふくらませ、色彩を通じた作品制作への意欲を高める。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 意欲的に学習に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 色から多くの発想を作り出す。

6 学習計画（全4時間）

- (1) 用具・準備
 - ① 用具 画用紙 トーナルカラー ポスターカラー
 - ② その他 国旗の資料 サッカーユニフォーム
- (2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	導入 教科書 p 32・33 を見る。 「たくさん色がある」 「知っている色もある」 それぞれ知っている色名を発表する。 自分たちのポスターカラーを見てみる。 「読めない」 「聞いたことのない色名がある」 「何語だろう」 本時の展開 それぞれの色名の由来を推理する。 グループで話し合い、発表。 「バーントシェンナは英語で焼けた土」 「モーブ」は動物の名 …… 正解を知り日本と違うことを知る。	どんどんあてて生徒が知っている色の名を板書する。 和名、洋名どちらもよい。 色の名を黒板に示す。 英語とカタカナ両方を明記。 何人かあてて色の名の意味を考えさせる。 12色は多いので、バーントシェンナ、セルリアンブルー、モーブなど4色ほどに絞っておく。 正解を発表する。

次	時	学習活動	指導上の留意点
		<p>「同じような色なのにこんなにイメージするものが違うんだ」</p> <p>日本の色あわせについて理解する 「組み合わせで色のイメージをだすんだ」 「2色以上の組み合わせもあるのかな」</p> <p>同じような色でも国や文化が違っていると名前が違うことを理解する。 「季節や植物や肌の色が違っているからかも」</p> <p>次回は身近なものの色名を作って名前を付けてみよう。</p>	<p>和名の由来も発表する。</p> <p>単色だけでなく、組み合わせで色やものをイメージする「色合わせ」を紹介する。 掛け図を使う。</p> <p>色の名の由来にはその土地の文化や環境などが大いに関係することを説明 国旗やサッカーユニフォームで色のイメージが使われていることを見せる。</p> <p>次回の予告を告げ作品を見せてイメージさせる。</p>
二	2	<p>色名を考える。 配色カードで組み合わせを考える。 「校長先生っていう色作るぞ」 「私、loveにする」</p> <p>決まったらポスターカラーで画用紙に着色し2種制作。 意欲がある場合3種以上も可。</p>	<p>アイデアカードにメモを書かせる。 机間巡視してアドバイスする。 色の名はクイズにするので皆に言わないよう説明する。</p> <p>筆の使い方（面相と彩色） 筆洗バケツの使い方 パレットの使い方 水の量 を指導。</p> <p>次回、作品の色名あてをすることを予告。</p>
三	1	<p>机に並べてある番号順の作品を見て自分たちで「色名」を推理し、ワークシートに書き込む。</p> <p>正解を知る。 「〇〇さんのがぴったりだと思った」 「色の名がおもしろかった」</p> <p>まとめ 色について関心をもち、イメージすることの大切さを理解する。 ワークシートに感想を記入する。</p>	<p>班でまとめて置いておくよう指示。 裏は絶対に見ない（色名が書いてある）。 色名はあらかじめプリントしておき、空欄に番号を記入するクイズ方式。</p> <p>正解を発表する。 誰の制作した色名が一番しっくりきたと思ったか当てて聞いてみる。</p> <p>パッケージデザインやいろいろな生活用品に色のイメージが使われていることを説明する。</p>